

第2次環境基本計画後期計画の施策(SDGs等)について

①SDGs 環境講座「SDGs の 17 マークは、世界の共通言語」 ～私たちの暮らしの中からできることを一緒に考えよう～

事業概要

日時 11月17日(日) 午後1時30分～3時30分

会場 エコプラザ西東京 プラザ棟2多目的スペース

参加者 39人

主催 エコプラザ西東京

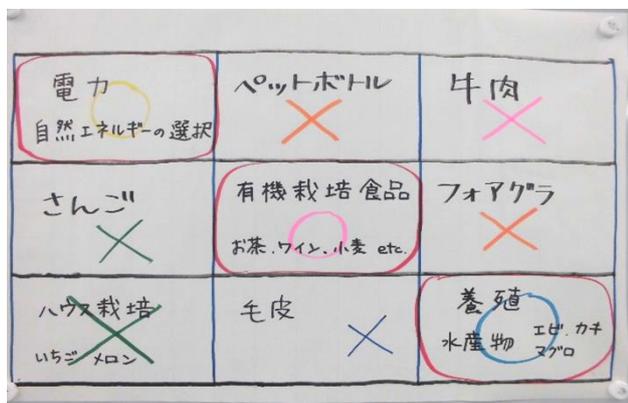
講師 公益社団法人 日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
理事・環境委員会委員長 村上 千里氏

事業目的

SDGs とは何か 17 のマークの概要にふれ、講師の専門である教育(目標4:質の高い教育をみんなに)や消費(目標12:つくる責任 つかう責任)から暮らしとSDGsをつなげ「私たちの暮らしは、世界につながっている。」をコンセプトに世界が抱えているさまざまな課題に対して、2030年のゴールに向かって暮らしの中からできることを参加者と一緒に考える。

事業内容

「持続可能な開発目標 SDGs」とは何かを講師が概要にふれ 17 マークの説明がなされ、講師の専門であるエシカル消費に話が進んだ。その後、「エシカルな商品を探そうBINGO」というゲームを行った。各グループに分かれた参加者が環境に良い商品、悪い商品を挙げて紙に書き、他のグループと意見が一致する商品があれば正解という形で、ビンゴゲームを行い、楽しみながらSDGsや環境問題について学ぶことができ、参加者からの好評を得た。



②「ファッションの裏側、ご存じですか？」～衣類のリサイクルを考える～

事業概要

日時 12月15日(日) 午後1時30分～3時30分

会場 エコプラザ西東京 プラザ棟2多目的スペース

参加者 13人

主催 エコプラザ西東京

講師 公益社団法人 日本消費者生活アドバイザー・コンサルタント・相談員協会
消費生活アドバイザー(消費者教育委員会副委員長) 坂根 裕子氏

事業目的

衣類は、私たちが生活するうえで欠かせないものであり、ファッションは、安価でトレンドも高く消費者にとって購入しやすい。そのため、大量に買い、大量に捨てられている。なぜファッションが安価で手に入るのか、その裏には隠された発展途上国の貧困と深刻な労働問題がある。その実態を参加者に伝え、参加者と一緒に何ができるかを考える。そして、日本の衣類のリサイクルの現状を探る。

SDGsの目標1「貧困をなくそう」、目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標4「質の高い教育をみんなに」、目標6「安全な水とトイレをみんなに」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標10「人や国の不平等をなくそう」、目標12「つくる責任つかう責任」に貢献する。

事業内容

- (1) ファッションの外注を受けている発展途上国(インド・バングラディシュ)の貧困問題や健康被害、児童労働、教育問題、劣悪な労働環境、環境汚染、低賃金労働などの状況下で服が作られるまでを検証した。
- (2) 日本の衣類のリサイクルの現状を探り、不要となった衣類の6割以上が焼却されてCO₂発生させ、地球環境を悪化させている現状を伝えた。
- (3) 班ごとにグループワーク、ディスカッションを行い、服の生産から廃棄にいたるまでの様々な問題に消費者の立場と企業の立場から解決策をグループごとに考え発表した。一人一人の消費者が、価格だけでなく社会や環境に配慮した消費者行動、買い物を行うエシカル消費に参加することが大切との意見でまとまった。



2



③SDGsすごろく

事業概要

日時 12月15日(日) 午前10時00分～午後1時00分
会場 アスタ2階 センターコート
参加者 大人51人 子ども25人 計76人
主催 環境保全課

事業目的

全年齢を対象とした啓発活動として、アスタセンターコート全面を使用した大型すごろくを実施し、SDGsの17のゴールを楽しみながら学べる機会を設ける。

事業内容

アスタの開店時から講演会の開催までの時間に、センターコートの会場全体を使って SDGsすごろくを行った。途中でSDGsの17のゴールに関連した〇×クイズを用意し、クイズを解きながら進んでいく形式とし、体験者に楽しみながらSDGsに関する啓発を行うことができた。買い物客の家族連れなどが楽しそうに参加し、親子で一緒にクイズの答えを考え、全ての参加者がゴールした。

17. パートナリープで目標を達成しよう

えすでいーじーず Q. SDGsの17の目標を達成するのに
ひつよう 必要なのは?

〇 ① すべての国が協力すること

✕ ② 先進国が変化を先導すること

✕ ③ 開発途上国が変化を先導すること

17 パートナリープで
目標を達成しよう



④SDGs講演会

「JICA シニアボランティアを通して体験したこと、学んだこと、これから私たちが
できること～2021年カーボンニュートラル国家を目指す自然豊かなコスタリカ～」

事業概要

日時 12月15日(日) 午後2時00分～午後4時00分
会場 アスタ2階 センターコート
参加者 約30人
主催 環境保全課
講師 元ジャイカシニアボランティア 倭 浩一郎 氏

事業目的

JICA シニアボランティアとしてコスタリカで廃棄物問題に携わった方を講師に招き、コスタリカでの体験談を中心とした講演会を行うことで、一般市民に対し SDGs の普及啓発を行い、一人一人の市民が日常生活の中でSDGsへの貢献のためにできることを考える機会を設ける。

事業内容

講師が商社を定年退職後にジャイカシニアボランティアに応募してコスタリカに派遣されるまでの経緯、コスタリカの歴史、文化などの紹介、コスタリカでの生活や仕事での実体験、自らの活動とSDGsの結びつきなど、多岐にわたる興味深い講演をしていただいた。会場が商業施設内の広場であったこともあり、事前申込者以外に、通りかかりの買い物客などにも講演を聞いていただくことができた。また、東京都立保谷高等学校の生徒が10名以上参加し、講師の話を熱心に聞き、講演終了後にも積極的に講師に質問を投げかけ、講師も一つ一つに丁寧に応じてくれた。最後は講師と参加者で記念撮影を行った。



⑤フードドライブ事業

事業概要

日時

食品受付期間 1月6日(月)～1月17日(金) 各施設で受付実施

食品配布日 1月18日(土)田無総合福祉センターに受入団体約20団体が受け取り。

会場 エコプラザ西東京 他

主催 西東京市社会福祉法人連絡会(みどり環境部から環境保全課・ごみ減量推進課が協力)

事業目的

家庭で余っている未利用食品を回収し有効利用することにより食品ロスを削減し、ひいては可燃ごみ及び不燃ごみ等の減量に寄与する。さらには、集まった食品を市内の子供食堂や中学校放課後カフェなど、食の支援が必要とされる場所に届け、必要とする人が消費することで、飢餓や貧困の防止に寄与する。この取組みにより、SDGsのゴール1「貧困をなくそう」、2「飢餓をゼロに」、3「すべての人に健康と福祉を」、12「つくる責任 つかう責任」の解決に貢献する。

事業内容

西東京市社会福祉法人連絡会が行っているフードドライブ事業にみどり環境部として協力し、エコプラザ西東京で食品の受入れを行った。環境保全課は主に事業の周知活動を担当した。今回、期間中にエコプラザ西東京だけで合計121個の食品を集めることができた。

来年度は環境フェスティバルでのフードドライブの実施など、さらなる事業の継続・拡大に向け、検討していきたい。



⑥クールチョイス推進事業

1. クールチョイスとは

2030年度の温室効果ガスの排出量を2013年度比で26%削減するという国の目標達成のために、地球温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す、環境省が進めている取組み。

2. クールチョイスが必要な理由

現状・課題(国の目標を現状のままでは達成できない)

⇒後期計画で温室効果ガス削減を基本方針に掲げ、クールチョイス運動の普及啓発を市の取組みとして明確化した。

⇒クールチョイスをキーワードに、地球温暖化対策を市・事業者・市民が一丸となって取り組む必要がある。

3. 事業目標

第2次環境基本計画後期計画の温室効果排出量削減目標を達成するためには、全市をあげてクールチョイス運動に参加する必要がある。そのため、市全体にクールチョイスを浸透させるため、普及啓発事業を行う。特に、なるべく低年齢のうちから啓発することが効果的であり、保護者への啓発にもつながることから、保育園児・幼稚園児を対象とした普及啓発活動を優先的に行う。

4. 具体的なスケジュール等

R元年度

第二次地球温暖化対策実行計画事務事業編(後期計画)改訂
(クールチョイスの視点を盛り込む)

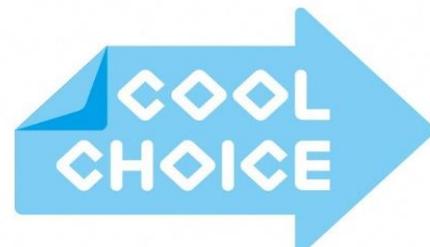
R2年度

- ・市長によるクールチョイス宣言(環境フェスティバルを予定)
- ・保育園・幼稚園児向け啓発冊子作成・配布
職員が保育園を訪問し、園児に冊子を渡す際にクールチョイスを呼びかける。
- ・庁用車用ステッカー作成
- ・ロゴステッカー等作成
- ・クールチョイス講演会実施

R3・4年度

- ・一般向け冊子作成・配布
- ・ロゴステッカー等作成
- ・市長の宣言の確実な推進
- ・クールチョイス講演会実施

☆環境省の補助金(10/10補助)を活用して実施する予定



未来のために、いま選ぼう。